

## 【講演記録】

## 愛知大学記念館孫文関連史資料紹介

愛知大学東亜同文書院大学記念センター研究員 武井 義和

(2018年11月28日 兵庫県公館)

みなさん、こんにちは。本日は愛知大学記念館が所蔵・一般公開する孫文関連の史資料について、具体的には孫文支援者として活躍した山田良政・純三郎兄弟が残した史資料について、皆様にご紹介したいと思います。宜しくお願いたします。

同じ愛知県内にある名古屋市にもキャンパスを有していますが、豊橋市の愛知大学記念館において、山田良政・純三郎兄弟の史資料の一部を一般公開しています。

愛知大学記念館はもともと1908年に陸軍第15師団司令部として建てられ、第二次大戦後は愛知大学本館として、およそ半世紀にわたり活用されました。1998年に文化庁によって登録有形文化財に指定されたことにより、愛知大学記念館と名を改め、博物館相当施設に生まれ変わりました。

2017年秋、1階部分にある展示室の入れ替えを行いました。これにより、愛知大学やそのルーツ校・東亜同文書院の歴史を紹介する展示のほかに、コレクション展示の1つとして「山田良政・純三郎兄弟、孫文展示室」が改めて設置され、今に至ります。

山田兄弟の展示は、以前は二部屋を使用していましたが、一部屋に集約しました。それにより、山田兄弟が孫文や近代中国にどのように関わったのかについて、よりコン

## 愛知県豊橋市



## 愛知大学記念館



まず、愛知大学記念館がどこにあるのかと申しますと、愛知県豊橋市にある愛知大学のキャンパス内にあります。愛知大学は

## 《山田良政・純三郎兄弟、孫文》陈列室



パクトに紹介する展示となりました。  
現在、愛知大学記念館には学生たちが授業のカリキュラムで見学を訪れるほか、一般の方もいらっしゃいます。また、孫文にゆかりのある中国、台湾、香港からも見学者がいらっしゃいます。

《山田良政・純三郎兄弟、孫文》陈列室  
参观情景



では、山田良政・純三郎兄弟とはどういう人たちであり、孫文とどのように関わったのかにつきまして、愛知大学記念館の史資料とあわせて述べてまいります。孫文は彼らをどのように認識していたのかを示す記述がありますので、まずはそちらをご覧くださいと思います。



山田良政  
(1868～1900年)



山田純三郎  
(1876～1960年)

こちらの一文はご存知の方も多いと思いますが、孫文は革命に奔走し終始怠らなか

《总理全集》第一集

其為革命奔走始終不懈者。  
則有山田兄弟宮崎兄弟菊池萱野等。

出处：  
孫文《总理全集》第一集(建国方略之一 心理建设)  
胡汉民编，上海民智书局 1930年，第527页。

った日本人として、山田良政・純三郎兄弟、宮崎滔天をはじめとする宮崎家の兄弟、山田兄弟の従弟にあたる菊池良一、そして萱野長知などの名を挙げています。ここからは、孫文が山田兄弟を革命に力を尽くした日本人と認識していたことが分かります。

ここで、山田兄弟の出身地である青森県弘前市について言及したいと思います。弘前市は山田兄弟の出身地であり、孫文や蔣介石によって建てられた山田兄弟の記念碑を見ることができる、非常に重要な町です。

青森県弘前市



山田家の菩提寺・貞昌寺（青森県弘前市）



山田兄弟の記念碑を見ることができる場所が、弘前市内にある貞昌寺というお寺です。貞昌寺は山田家の菩提寺で、その境内に山田良政と純三郎の記念碑が並んで建てています。

こちらがその記念碑です。今年の4月に

貞昌寺内の山田良政・純三郎兄弟記念碑



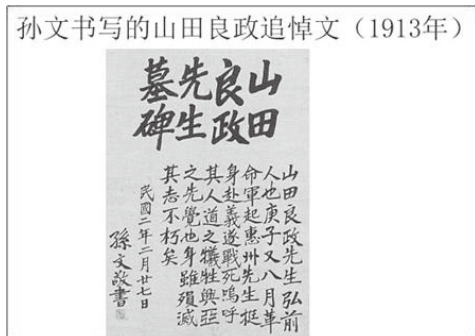
撮影してきたものです。向かって右側が良政記念碑、左側が純三郎記念碑です。少し拡大した写真を見てみましょう。

山田良政と孫文は 1899 年に東京で出会い、山田は孫文の協力者となりました。そして 1900 年南京同文書院教員となりますが、同年辞職し、その年の秋に広東省惠州で起きた惠州蜂起に関わり命を落としました。彼は中国の革命で命を落とした最初の外国人であったと、孫文は書き記しています。



山田良政記念碑は 1919 年に孫文によって建てられたもので、孫文謹撰ならびに書と篆刻されています。第二次大戦後、台湾の歴代駐日大使が参拝に訪れた場所であり、今でも中国や台湾から石碑を見に訪れる方々がいると聞いております。孫文は 1913 年に日本を公式訪問した際にも、東京に山田良政の記念碑を建てているため、東京と弘前の 2 ヶ所に孫文が建てた石碑が存在することになります。

また、民国二年の年号が入っている孫文の山田良政追悼文も残されております。こ



れは愛知大学記念館で展示しております。

今度は山田純三郎記念碑についてご紹介したいと思います。

山田純三郎は兄良政の遺志を受け継ぐ形で、東亜同文書院事務職員兼教員を経て、辛亥革命の頃から孫文の支援者となり、1925 年孫文が亡くなるまで行動を共にしました。



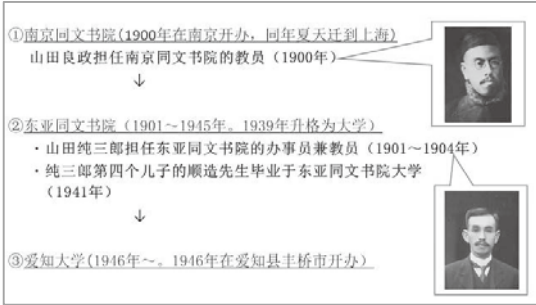
この山田純三郎記念碑は 1976 年に建立されたものです。本文は何応欽がしましたが、その中で記念碑の上方にある「永懷風義」という題字は蔣介石が贈ったものであることも記されています。

このような、孫文と蔣介石が建てた石碑がともに並んでいるのは極めて珍しく、歴史的にも重要であり価値があると思います。

では、こうした山田兄弟の関係史資料が、どうして愛知大学にあるのかと言いますと、1991 年に山田純三郎の四男・順造氏が愛知大学へ寄贈する遺志を表明されたからです。そして順造氏および山田良政・純三郎兄弟が、いずれも愛知大学のルーツに当たる学校に所属していたからです。その学校が、南京同文書院、東亜同文書院です。

ここで、少し愛知大学の歴史をご紹介させていただきます。愛知大学のルーツをたどると、1900 年南京に誕生した日本の学校「南京同文書院」にさかのぼります。この学校は日中友好を目指す日本の学校で、1899 年に東亜同文会会長・近衛篤磨が南京で両江総

督劉乾一と会見し、劉の共感を得た結果、実現したものです。南京同文書院は同年上海へ移転し、翌1901年に「東亜同文書院」と名を変えて再出発し、1945年まで存在しました。この東亜同文書院の学長や教員たちが戦後創設したのが、愛知大学です。



さて、順造氏は父親の山田純三郎が1960年に亡くなると、史資料を引き継ぎました。そして、個人で山田兄弟を顕彰する資料館を建設するという構想をもち、実現に向けていろいろと活動されました。しかし、莫大な資金が必要になることが判明し、またご自身が病気になったこと等もあり、断念せざるを得ませんでした。

その後、順造氏がかつて在学していた東亜同文書院の同期生をはじめ、関係者など多くの方々のご尽力もあり、亡くなる直前に愛知大学への寄贈を表明されたのです。

では、愛知大学記念館で展示している主な史資料を、次にご紹介してまいります。

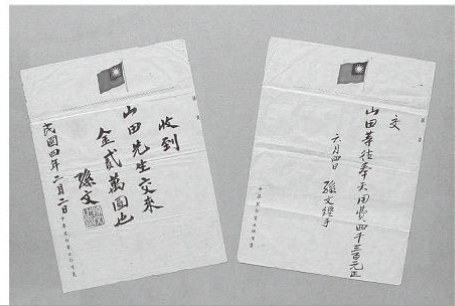
この2点はご存知の方も多いと思いますが、辛亥革命の最中、1911年12月21日にアメリカからヨーロッパを経て帰国した孫文を、中国の革命家や日本の支援者たちが香港で出迎えた時に撮影されたものです。孫文と山田純三郎がともに写る写真、そして孫文を囲んで日中両国の同志たちがともに写る写真です。

孫文与山田純三郎 (1911年12月, 香港)



これは1913年に孫文と袁世凱が対立した第二革命で孫文が破れ、日本へ亡命している時期に記された文書です。左は1915年2月に山田純三郎に宛てた領収書、右は山田純三郎たちが中国へ行くための費用支払いを命じる書類です。孫文は1913年から1916年まで日本で亡命生活を過ごしましたが、そうした中でも山田純三郎が孫文に協力していたことが分かります。なお、この2枚の書類の左下隅には、孫文が1914年に東京で組織した「中華革命党」の名が入っています。

孫文书写的收据, 付款命令书



1916年に帰国した孫文は1917年以降、挫折を繰り返し強いられながらも広東省に政権を樹立します。

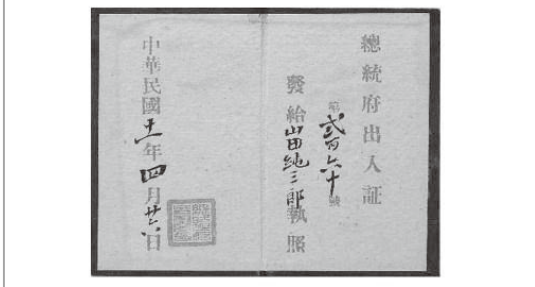
この孫文・宋慶齡夫妻の写真は、写真下に1920年とあることから、撮影された時期が分かります。また、写真の上の台紙部分には「To Mr. & Mrs. Yamada」とあり、孫文と山田純三郎が家族ぐるみで交流していた様

子も窺い知ることができます。



これは山田純三郎に出された広東護法政府総統府出入証です。1922年4月26日と発給年月日が明記されています。この直後の6月、孫文は陳炯明のクーデターに遭い政権が崩壊、上海へ避難せざるを得ませんでした。山田純三郎はこの時、廖仲愷夫人の何香凝を救い出そうと努めました。

广东护法政府总统府出入证（1922年）

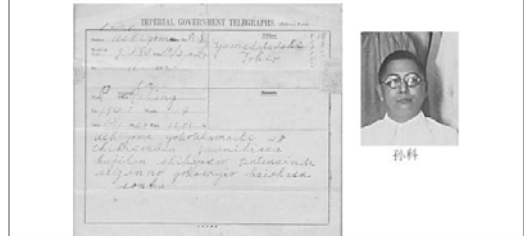


1924年、孫文は北京で張作霖や段祺瑞との会見に臨むため、広東を出発します。その途中、神戸へ立ち寄り「大アジア主義」講演と現在呼ばれる講演を行ったことは有名です。この時、孫文は東京にいた山田純三郎を呼び寄せ、神戸で合流しました。そして孫文が北京へ向けて移動する際には、山田も行動を共にし、中国へ渡りました。1925年3月12日、孫文が北京で亡くなる時、山田純三郎は孫文夫人の宋慶齡に呼ばれ、臨終の

際にいた孫文の死に水を取ったと伝えられています。

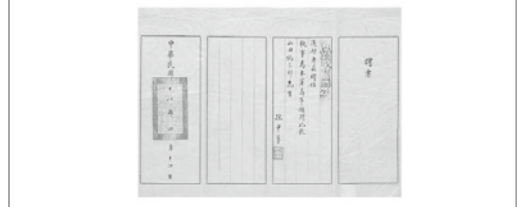
この資料は孫文が亡くなった翌日の3月13日に、孫文長男の孫科から東京の山田家へ宛てた孫文の訃報を知らせる電報です。

孙科发给山田家的孙文讣告电报（1925年3月）



孫文死去後、蒋介石が実権を握り1928年南京国民政府を樹立しましたが、翌1929年には山田純三郎に宛てて南京国民政府から顧問招聘状が出されています。

南京国民政府颁发给山田纯三郎的顾问聘书（1929年）



一方、1931年には蒋介石の独裁化に反対して広東国民政府が広東省に樹立されました。この資料は山田純三郎に宛てて、広東国民政府から出された外交顧問招聘状です。

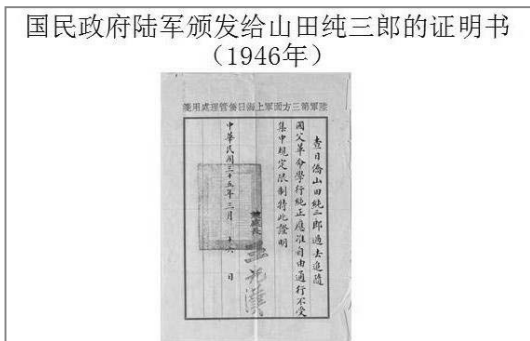
广东国民政府颁发给山田纯三郎的顾问聘书（1931年）



1930年代半ば、山田純三郎は上海で日本語専門学校を経営し敗戦を迎えます。これ

は敗戦翌年の1946年に、国民政府陸軍が山田純三郎に対して出した証明書ですが、孫文の協力者であったという理由で、通行の自由を認め日本人管理の適用外とする旨記されています。

孫文の協力者であった山田純三郎は、当時の中国国民政府軍からも評価されていた様子が分かります。



このように、愛知大学には現在、孫文に深く関わった青森県弘前出身の山田良政・純三郎兄弟が残した史資料を多く所蔵しており、その一部を一般公開しています。

本日は時間の都合上、詳しくお話しできませんでしたが、もし興味関心を持たれましたら、ぜひ愛知大学記念館へお越し頂ければと思います。

ご清聴有難うございました。

(※本稿は、2018年11月28日に公益財団法人孫中山記念会の主催により、神戸市の兵庫県公館にて開催された孫文・宋慶齡紀念地聯席會議開催記念の特別講演会「孫文・宋慶齡を支援した日本の人々」で報告した内容である。)



武井義和の報告風景